

**読売理工医療福祉専門学校**

**学校関係者評価 報告書**

**「2017 年度」**

**2017 年 7 月 29 日**

**学校関係者評価委員会**

## 1. 学校関係者評価

学校関係者評価では、学校が、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の関係者を委員に選び、「学校が実施した2016年度の自己評価結果の報告」と「2017年度の取り組み」に対する評価を依頼する。委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

## 2. 2017年度 第1回学校関係者評価委員会の実施

2016年度の「自己評価報告書」を作成し、委員会を開き、評価項目毎に結果を報告した後、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。続いて、17年度の重点目標と取り組み状況について報告した。

- ・開催日時：2017年7月29日（土）午後2時～4時
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 402 教室

## 3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

### 【委員】

- ・渡部 俊一：卒業生 校友会会長
- ・風間 正弘：保護者 建築学科学生の保護者（欠席）
- ・湯浅 孝雄：地域住民 慶応仲通り商店会会長
- ・羽場 宏祐：企業等 放送映像学科（株）インターナショナルクリエイティブ取締役最高顧問
- ・鹿毛 信一：企業等 建築系学科 河端建設(株)工事部長
- ・武田 知明：企業等 電気電子学科 東邦電計(株)営業部長
- ・笹口 友美：企業等 臨床工学系学科 北里大学北里研究所病院・看護部
- ・大庭 尚子：企業等 介護福祉学科 港区立特別養護老人ホーム港南の郷・保健課長

### 【学校側】

- ・千葉 康文：理事長
- ・吉見 淳一：専務理事
- ・渡邊 敏章：校長
- ・天野 誠一：法人本部長
- ・佐伯 和宏：事務局長
- ・菅野 敬祐：校長補佐・臨床工学系学科長
- ・黒田 幸弘：建築系学科長
- ・角田 浩二：電気電子学科学科長
- ・水落 清治：放送映像学科学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科学科長
- ・豊田 正敏：参与
- ・久保 真樹：総務室課長
- ・久保寺秀行：総務室員

（敬称略・順不同）

#### 4. 委員からの意見・提案（評価点：4点満点）

##### [1] 2016年度の取り組みに関する意見

###### （1）教育理念・目的・育成人材像等（4.00）

- ・経済的に学習の難しい学生向けに様々な奨学金があることをホームページやパンフレットでもっとアピールしてはどうか。経済的理由であきらめている人は学校のホームページより奨学金で検索するのではないか。
- ・読売式教育メソッドとくに各科に必要なコミュニケーション人間力、専門力の開発と学生のレベル適性に合った専門職への目標が導き出せる指導が必要。

###### （2）学校運営（3.67）

- ・新校舎の場所も移転年度も決まりましたので、新校舎をアピールして学生募集に繋がれば良いと考える。
- ・今後増加しつつある留学生のレベルに合った語学、専門力、人間力、就職力のさらなる開発プログラムが必要と思われます。専門職大学、短大を視野に入れた教育プログラムの必要性。
- ・今後のことも考えると教員の人材確保が必要ではないかと思えます。

###### （3）教育活動（3.83）

- ・留学生の増加や学生のレベル差で苦勞している学科や先生が足りていないように見受けられる学科あるようですが、各学科ともチーム力を上げて対応して欲しい。
- ・放送映像学科に関しては、専門力の教育のため、映像撮影の基本であるスチールカメラの撮影方法、実習を取り入れたらどうか？撮影の基礎教育ができる。

###### （4）教育成果（3.83）

- ・2015年度に比べて2016年度は退学者が減ったのは良いと考える。就職率を見るとパーセントが少ない学科もありますので更なる学生指導の充実を望みます。
- ・インターンシップ企業、他、就職先での1年後の状況等、企業と連携を推進させる。企業の現場を学生に知ってもらう為、先生の企業への実習、インターンシップ制度を考えたらどうか。

###### （5）学生支援（4.00）

- ・ベトナム出身の留学生の増加に対してベトナム出身のカウンセラーを付けたことは素晴らしい対応をされたと感じました。
- ・外国人の増加に伴い、言葉・文化・習慣の違いがあり、支援が困難なケースもあり、教職員の負担も増加していることが推測されます。教職員のケアも大切になってくると思えます。

###### （6）教育環境（3.33）

- ・新校舎が決まって良かったと考えていますが、現在の校舎や施設の老朽化に対して、どのように対応すべきか難しい問題ですが、それなりに対応してやっていくしかないと感じました。地震がこないように祈るのみです。
- ・新校舎移転に伴う教育環境のさらなる進化を期待しています。
- ・廊下等の証明は少し暗めです。トイレはきれいです。
- ・新たな校舎に期待します。

###### （7）学生の受け入れ募集（3.83）

- ・各学科とも好調に見受けられますが、いつまで続くか分からないので、次の検討をお願いします。

- ・留学生の募集を積極的に推進、1年時では語学の習得を中心に、2年時で人間力、専門力を重点的に教育。就職力に結び付ける。
- ・各種媒体ではよく見かけています。インパクトはあります。
- ・介護福祉学科は、募集等頑張っしてほしいです。受け入れ態勢は整っています。

#### (8) 財務 (4.00)

- ・各学科とも好調に見受けられますが、いつまで続くか分からないので、次の検討をお願いします。
- ・新校舎移転に伴い学生の収容人数(募集人数)を増やす。授業内容を充実させ実践的教育が必要。そのためには適正な人数の先生の確保が必要。

#### (9) 法令等の遵守 (4.00)

- ・法改正等や全教職員の方々への自覚の浸透など、常に危機感を持たれているようですので引き続き対応をお願いします。
- ・学生、特に留学生へのさらなる心のケア、カウンセリングをお願いしたい。特にTVディレクター学科は就職後ストレスが大きい職種なので十分なコンプライアンス教育が必要。

#### (10) 社会貢献・地域貢献 (3.50)

- ・地域貢献等は新校舎に移転しても続けて欲しい。
- ・24Hテレビ、地元商店街のイベントへのボランティア活動など行っている。
- ・各学科の取り組みの差が気になりますが、おおむね良好に社会貢献できていると思います。
- ・学科によってばらつきがある。学科によっては地域貢献が難しいと思う。

### [2]2016年度の改善点に関する意見

- ・退学率は減ってきているので良いと感じていますが、より減らせるよう努力を続けて下さい。
- ・留学生教育の充実はよいと考えています。
- ・地域貢献・学生ボランティア活動の活性化よいと考えています。
- ・新校舎の完成に伴い財務的には学生の収容人数(募集人数)を増やす。特に今後増加すると思われる留学生の受け入れ態勢と教育プログラムの構築が急務。
- ・専門職大学、短期大学の新設に伴い専門学校の役割、目標、授業カリキュラム等、原点に戻り検討する必要があるかも。
- ・移転先も文京区に決まり安心しました。
- ・留学生の日本語教育の徹底
- ・おおむね達成できている。介護福祉学科は外国人への対応も細やかでレベル(質)も担保出来ている。
- ・専門学校は少子化と大学志向のなかでどのような方向性で教育していくのか。大学の入試制度改革も見据えていく大切な時期であると感じています。
- ・外国人に力を入れる学科は外国人のケアとそれを荷う教職員のケアも必要と考えています。

## 5. 2017年度の重点目標

- ・学生教育の充実

留学生の教育については過去2年間重点目標に置き、学校内の指導環境は大きく整備前進され、日本語能力向上・生活指導の体制は一通りの成果を見せることが出来てきた。

留学生の在籍数は増加してきており、進級・卒業生数も増加することから卒業後の進路決定に対しての充実を図りたい、進路として留学生の多くは日本国内での就職を希望しており、留学生に対する就職指導の方法を確立することを重点の目標にする。その達成には、就職に向けたマナーをはじめとし

た就職力の向上と共に企業の開拓に力を入れ、入学から卒業までの留学生の指導を確立する。さらに各学科においても、留学生の入学から卒業までのスタンダードを完成させる

・教育の質保証関連

昨年度の各学科の自己点検評価に於いては、次の3つの項目について適切とする学科が少なく、職業実践課程の「最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されており、当該専門課程において、企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修の機会を作る」という観点からも、重点項目とし今年度より適切なものになりたい。

- 1) 各学科の関連分野における実践的な職業教育の産学連携によるインターンシップ、実技・実習等のさらなる充実
- 2) 各学科の関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上
- 3) 卒業後のキャリア形成への効果を把握と支援

・移転準備作業の着実な推進

2020年4月の文京区への移転が決まり、新校舎での学校運営が滞りなく開始出来るよう、教室・実習室等設備等は勿論のこと、関連公官庁への届出変更、学生募集等に関する準備作業についても着実に推進する。

## 6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、次回報告する「2016年度の間接評価に対する意見・提案」と合わせ、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上